



風景の句読点

Punctuation of Scene

第7回

① 海に浮かぶ舟屋

パシフィックコンサルタンツ株式会社／本社／総務・労務部
山口 佳織 YAMAGUCHI Kaori (会誌編集専門委員)

伊根

海に浮かぶ舟屋 (京都府与謝郡伊根町)

漁業でくらししてきたまち

京都駅から車で2時間と少し。丹後半島の北東部、伊根湾沿いに三角屋根が連続して並ぶ舟屋群がある。青く静かな海に浮かんでいるかのようにも見える、約230軒の舟屋群は、2005年に漁村として初めて、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

伊根湾は、日本海側でありながら南向きの漁港であり、湾の入り口にある青島が防波堤の役割を果たすことで、1年中穏やかで干満の差も少ない。伊根湾沿いの地域は、背後の三方を山々に囲まれた独特な地形であり、古くから定置網漁や鰯の養殖業などが盛んな漁村集落となっている。舟屋はいずれも湾の中央に向かって妻入りの形式をとっており、どこからでも湾を見渡すことができ、大物が湾に入ったときには集落中の人々が駆け付け、協力して漁業を営んできた。



「風景の句読点」は、私たちの心に句読点を打ち、思わず足を止めたいような素晴らしい風景について、その成り立ちや魅力の源泉を紹介するコーナーです。



② 草葺だったころの舟屋

生活の真ん中にあった舟屋

江戸時代中期には自然に形成されていたという舟屋群。漁船の格納庫として、はじめは草葺であった舟屋は、1880～1950年頃の鰯の豊漁等がもたらした好景気により、舟屋の新築や改築が進み、2階建ての瓦葺きへと変化していった。一般的な世帯は、舟屋のほかに、道路を挟んで山側に母屋も所有している。舟屋の1階は漁船を引き揚げる他に、魚を干したり、漁具を保管したりする場所、2階は母屋の居住スペースから拡張された居室として、利用されるようになった。

主たる居住スペースである母屋と舟屋を行ったり来たりする生活は、山に囲まれた平野部の少ないこの地域において、居住スペースを確保しつつ、生活を支える海の近くで暮らすための、最善の選択だったのである。

現在では漁船の大型化等に伴い、1階に漁船を保管する舟屋はほとんどないが、舟屋を観光資源として活用し、1日1組限定の旅館や飲食店を営んでいるところも少なくない。

伊根の朝

朝8時過ぎ、大型定置網が揚がったことを知らせる町内放送が流れる。住民達は自前のバケツを持って漁港へ集まり、各々が目当ての魚をバケツに入れる。その場で量り査定された額を支払い終えた者は、バケツを持って自宅へ帰っていく。普段、スーパーでパッケージされた魚を購入している観光客にとっては鮮烈な光景だ。そんないかにも漁村らしい光景が、美しい舟屋とともに今もここに残っている。



③ バケツを持って魚を買いに来た住民

<参考文献>

- 1) 伊根町 HP、<http://www.town.ine.kyoto.jp/>
- 2) 伊根浦伝統的建造物群保存地区まちづくりの手引き、平成30年3月改訂版、伊根町教育委員会社会文化財保護係
- 3) 漁村における家屋の機能変化とその要因―丹後・伊根浦の舟屋集落を例にして―、人文地理第42巻第2号(1990)、河原典史
- 4) 1ターナーによる漁業資産引き継ぎと観光業への転用に関する基礎的研究―引継ぎに際する障壁への対応に着目して―、公益社団法人日本都市計画学会都市計画論文集 vol.53 No.3 2018年10月、永島英之、川原晋、野田満

<写真提供>

- ①、③:筆者
②:成洋丸(海上タクシー)